

課題 環境にやさしい市民生活
ごみの減量化など市民レベルでの、意識と取り組み

アイデア

1 体験型生ごみ分別教室の開催

○ 2017年5月に、クリーンセンター職員が鯖江市内の各公民館や集落センターをまわり、調理を通して生ごみの分別啓発のための教室を催す。

・教室の内容

生ごみ分別の意識向上と周知を実際の調理をしながら学ぶ。親子での参加も可能であり、食を通して生ごみへの関心と、より一層の理解を図る。参加者には生ごみ袋を配布し、参加費は無料とする。

・参加方法

開催日を指定し、誰でも参加可能とする。開催日は5月の土曜日とする。

・開催日周知方法

地区の回覧板、ポスター、スーパーでのごみ袋売場でのPOP、市のホームページ、学校でのチラシ配布

2 生ごみ袋の新規作成

市役所(環境課)と連携し、鯖江市の生ごみ専用袋を開発。施行に向けた生ごみ分別の意識向上・周知を行う。

アイデアの論拠

・生ごみの比率が高い

燃やすごみに含まれる生ごみの比率が高いこと

・体験型の理由

クリーンセンター職員から直接指導を受け、ごみ処理を行う方のみえる化を行うことで、他人事で済ませがちなごみの分別を自分事としてとらえるよう促すことができます。

また、鯖江市の魅力は、市をより良いものにしていこうとする積極的な市民が多数存在するところにあります。代表的な例にJK課の設立や、それに影響を受け発足したOC課がその代表的な例です。(OC課facebook: <https://www.facebook.com/sabaec/>)鯖江市民の積極性を活かすことができる手段だと考えるからです。

・公民館や集落センターで行う理由

近隣住民の集う場所である公民館や集落センターで行うことで、互いに声を掛け、意識を高めあうことができるためです。

・生ごみ袋の必要性

現在、鯖江市では生ごみと燃えるゴミの分別を行っておらず、分別の必要性を感じている市民は少ない。また、そもそもどう分別すればよいのか知らないという課題がある。鯖江市に住む人にも、県内外から転入してきた人にも分かりやすく周知するという側面もある。

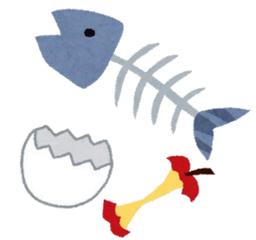
アイデア実現までの流れ

- 2017年1月 生ごみ専用ごみ袋の作成、講師の教育
- 2017年2月～ 店頭販売開始
- 2017年3月 教室の開催概要決定、各公民館や集落センターに利用申請
- 2017年4月 市民に対する開催要項通達
- 2017年2月～ 市民に対する周知
- 2017年5月 体験型生ごみ分別教室実施

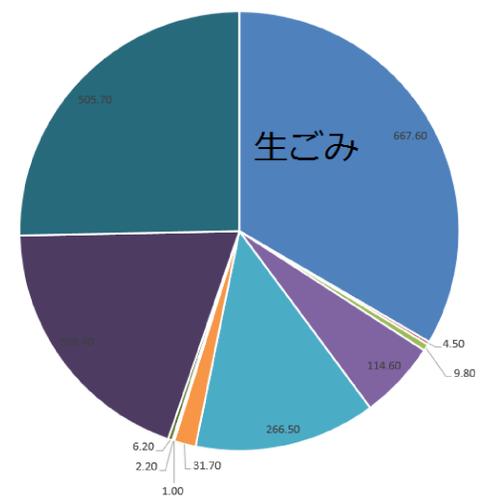
その他

アイデアの最終目標は生ごみの堆肥化を鯖江市全体が行うことであり、体験型生ごみ削減教室は、まず鯖江市民に生ごみ分別の意識を持ってもらうための手段の1つとしたいと考えています。

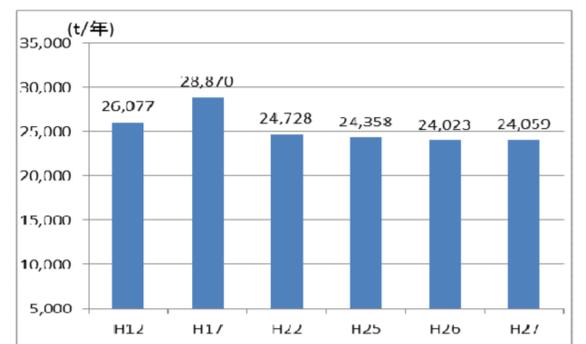
その他にも、鯖江市で催されるお祭りやイベント(つつじ祭りやメガネサミット、焼き鳥合衆国な分別を啓発する看板の設置、生ごみ分別の手引きの作成等を通して分別意識の向上を図ります。そのような取り組みにより、これまで燃えるごみに混ざって焼却処理されていた生ごみが堆肥化され、ごみの削減や地域課題である環境にやさしい市民生活を実現できるのではないかと考えています。生ごみの堆肥化については、現在、鯖江生ごみリサイクル市民ネットワークやエコネットさばえによる活動が行われており、共同で堆肥化を進めて行きたいと考えています。



燃やすごみ組成調査H28



市内のごみ排出量の経年変化



(市統計データより)



【指定ごみ袋(家庭系)】



【指定ごみ袋(事業系)】



【指定ごみ袋(ボランティア清掃活動用)】

